# 電子部品事業(DMB)

VISION 我々の"繋ぐ・切る"技術を軸に、顧客と共に社会課題を解決する

# SF2030ビジョンに込めた思い

電子部品事業は、SF2030において、3つのトランスフォーメーションを実現していきます。

1つ目は、事業のトランスフォーメーションです。オムロンの注力ドメインの一つとして、「カーボンニュートラルの実現」「デジタル化社会」の社会的課題を解決する事業を目指します。その意思を込めて、12年ぶりに事業のカンパニー名称を、「エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネスカンパニー」から「デバイス&モジュールソリューションズカンパニー」に2022年4月1日付で変更しました。コア技術と多彩な機能の組み合わせで製品の価値を向上させ、お客様が必要な機能をデバイス&モジュールを軸としたソリューションとして提供し、社会課題の解決に取り組んでいきます。コアとなる"繋ぐ・切る"技術は、創業以来、社会・お客様に提供し続けているリレー、スイッチ、コネクター、センサーなどのデバイス&モジュールの高機能化と品質向上で磨き続けてきた製品に流れる電気を繋ぐ・切る(オン・オフする)機能や、センシングする機能です。これらで、「新エネルギー\*と高速通信の普及」に貢献する新たな社会価値を創出していきます。



執行役員常務デバイス&モジュールソリューションズカンパニー社長行本 関人

2つ目は、注力領域のシフトです。コア技術を軸とした事業の強みが最大限発揮でき、さらなる成長機会が見込まれる4つの事業領域にフォーカスしていきます。注力領域は、DCドライブ機器、DCインフラ機器、高周波機器、遠隔/VR機器です。DCドライブ機器、DCインフラ機器においては、環境負荷対応により電源の直流化・高容量化、インフラの電動化が進んでいきます。製品の普及促進に向けて課題となるのが、感電や発火を防ぐための安全対策です。高周波機器、遠隔/VR機器においては、急速なデジタルシフトで高速通信・データの大容量化を実現する技術・デバイスが必要となります。これら課題解決の根幹を、我々の"繋ぐ・切る"技術で実現します。

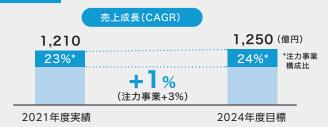
3つ目は、提供価値のシフトです。これまでの価値に加えて、「グリーン・デジタル・スピード」を軸とした新たな価値を加えていきます。脱炭素社会の実現に貢献するデバイス群の創出、デジタル価値の提供、営業・開発・生産が一体となり、社会変化に柔軟かつタイムリーに対応するコンカレント活動などにより提供価値スピードを加速していきます。

2021年度は、モジュール化による付加価値の向上や構造改革の完遂とともに、部材不足や物流混乱などの影響を受ける中でも需要にタイムリーに応える体制を構築してきました。トランスフォーメーションとして位置付けた最初の中期経営計画では、3つのトランスフォーメーションを完遂することで、デバイス&モジュールの提供にとどまらない付加価値をソリューションとして提供します。2022年度は社会課題解決を起点に、営業・生産・開発が一体となったコンカレント活動で社会に必要なキーデバイスをお客様とともに創出し、さらなる成長を遂げていきます。

<sup>\*</sup> 新エネルギー: 再生可能エネルギーと水素、燃料電池などの革新的なエネルギーを称す

# 「SF 1st Stage」について





#### 社会価値KPI

新エネルギー・高速通信の普及に 貢献する製品販売数(3年累計)

DC機器向け製品 6千万個 高周波機器向け製品 1億7千万個

#### 注力事業





#### 主な取り組み

中期経営計画「1st Stage」においては、「環境負荷対応によるDC化、社会のデジタルシフトに伴うデバイスの高 機能化・高速化ニーズを捉え、「新エネルギーと高速通信の普及」に貢献するデバイス&モジュール、ソリューション の提供を通じて成長軌道を確立していきます。

実現に向けて、4つの注力領域を設定しました。近年、環境意識の高まりからCO。排出量削減に寄与する新エネ ルギーの活用が急速に進んでいます。製品やインフラ機器の直流化・高容量化が進む一方で、安全性を確保するた め製品に流れる直流電流を安全に遮断・制御するデバイスが必要となります。これらを、長年培ってきた"繋ぐ・切 る"技術で創出することで、製品の普及を促進し、カーボンニュートラル社会の実現に貢献します。また、高齢化や個 人の格差拡大という社会課題解決につながる半導体や製品の進化には、安定した高速通信を実現するデバイスや これまで数値化することが難しかった人の感性情報のデジタル化が必要となります。オムロンは、コア技術をベース としたデバイス&モジュール、そしてソリューションを生み出し、誰もが快適に暮らせるデジタル化社会の実現に貢 献します。これらをリーディングカンパニー、研究機関、技術ベンチャーなどパートナーとの共創を通じて、新たな社 会価値創出にチャレンジしていきます。

さらに電子部品事業では、新たにグリーン・デジタル・スピードの価値をお客様に提供していきます。価値を掛け 合わせ、相乗効果を図ったデバイス&モジュールを軸としたソリューションとして提供することで、お客様へさらな る付加価値を生み出していきます。

電子部品事業は、お客様とともに社会課題の解決に取り組み、地球上すべての人々が安全・安心に暮らせるカー ボンニュートラル社会とあらゆる製品が繋がり安定して動き続け、より便利で快適なデジタル化社会の実現を促進 していきます。2022年度は、脱炭素に貢献するものづくりに取り組むとともに新たな社会価値をデバイス&モ ジュール、そしてソリューションとして創出する力とスピードをコンカレント活動によりさらに加速していきます。

#### ■3つのトランスフォーメーション

我々の"繋ぐ・切る"技術を軸に、顧客と共に社会課題を解決する

デバイス&モジュールソリューションズカンパニー

#### 注力領域

直流化、電動化推進

半導体が支える社会の実現











お客様が求める 高次元の設計/製造/ 製品情報の提供

お客様の期待を 超えたスピードでの 価値提供



オムロン 統合レポート2022

### "強み"を掛け合わせることで気候変動・災害リスクを低減、持続可能な社会づくりに貢献

近年、地球温暖化や自然災害が及ぼす社会への影響は深刻化しています。オムロンは、2017年から、世界最大級の民間気象情報会社であるウェザーニューズ社との共創で、社会的課題の解決に取り組んでいます。ウェザーニューズ社は、観測データやアプリユーザーからの天気・体感報告を独自の予測モデルに反映して予報することで、予報精度No.1を実現しています。この高精度かつ高解像度な予測データをもとに、企業や個人向けに気象リスク回避につながる情報サービスを提供しています。オムロンは、様々なエリアに設置可能な気象センサーを提供することで、従来よりも詳細な気象観測データを収集し、ウェザーニューズ社の気象予測精度向上をサポートしています。



事業統轄本部 商品事業統括 小島 英明

気象センサーは、温度・湿度・気圧など様々なセンシングデバイスと独自のアルゴリズム・通信技術を組

み合わせ、モジュール化した商品です。オムロンの営業・開発・生産、そしてウェザーニューズ社が一体となったコンカレント活動で、開発プロセスの効率化・短縮化を実現しました。ハードウェア技術を持つオムロンと、気象予測システムや対応策サービスなどソフトウェア開発・提供ノウハウを持つウェザーニューズ社の技術や知見を融合することで、地球上の人々の安全と安心な暮らしを守るサービスを生み出していきます。

今後も、両社の連携で高効率なエネルギー運用・自然災害へのレジリエンス強化 に向けたソリューションを提供し、新たな価値創造に取り組んでいきます。





ビルの屋上など様々な場所でデータを 収集する気象センサー

ウェザーニューズが、電力や小売、鉄道、道路など様々な市場に対して、精度の高い気象情報サービスを提供し続けるには、詳細な観測データが必要不可欠となります。当社は、より多くの気象データを収集するため、オムロン社とアプリユーザー携行型の簡易気象観測器「WxBeacon2(ウェザービーコン2)」や、建設や農業でニーズの高い気象センサーの共創・協業において、両社の強みを互いに活かしながら取り組ませていただいています。両社共に事業を通じて社会課題に向き合うといった企業理念への共感はもちろん、現場においては高い技術力への信頼と、起こりうる社会変化や環境変化に対する、アジャイルな取り組み姿勢と品質向上のためのPDCAに共感し、継続的に協



業させていただいている状況です。いま社会が直面する気候変動や環境、災害の課題に対しては、より高精度で解決性の高いサービスをタイムリーに生み出していく必要があります。そうした課題解決とよりよい社会づくりにおいて、今後も両社の強みを活かしたシナジーを生み出し、国内だけでなくグローバルにも協業活動の範囲を拡大していきたいと考えております。

株式会社ウェザーニューズ モバイル・インターネット事業部 マーケティング&セールス担当 井原 亮二氏

## 環境保全と事業成長を両立するものづくり

中国深圳市坪山区内にある数々の工場では、経済成長に伴い工場から排出される産業廃棄物の量が増加していました。同エリア内にあるオムロン深圳工場(OMZ)は、環境負荷低減に向けてさまざまな取り組みを率先して進めています。そのひとつが、自社の産業廃棄物のうち20%を占めていためっき残渣の削減です。OMZは、2019年からめっき残渣削減に向けた検討を開始し、高効率残渣

処理システムを考案しました。その結果、2020年OMZは約10トンものめっき残渣削減(前年比約50%減)に成功しました。さらに、OMZは改善技術・ノウハウを他めっき工場にソリューションとして提案、2021年坪山区エリア全体で合計8社、約225トン(前年比約40%減)の残渣削減に貢献しました。自社で実現したサステナブルなものづくりを深圳から広東省、そして将来的には中国全土に広げていくことで、事業を通じた社会的課題の解決に取り組んでいきます。

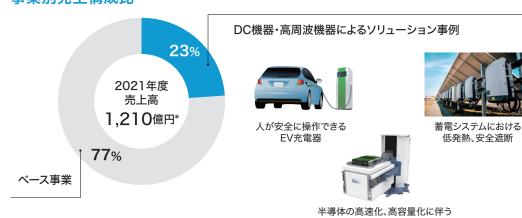


環境負荷低減に取り組む、オムロン深圳工場メンバー

# 2021年度 事業ハイライト

2021年度は、民生業界向け部品は、家電や住宅設備、電動工具などの注力業界を中心に需要が堅調に増加しました。自動車向け部品は、コロナ禍の影響や顧客での半導体不足による生産調整の影響を受けたものの、需要が緩やかに回復しました。これらの需要を的確に捉え、増産などの製品供給量確保にも着実に対応した結果、売上高は前期比で大きく増加しました。原材料価格や物流費高騰の影響を受けたものの、売上高の大幅な増加に加えて、付加価値向上の取り組みや構造改革の成果により、営業利益は前期比で大きく増加しました。この結果、2021年度の売上高は、1,210億円(前期比24.9%増)、営業利益は101億円(前期比120.6%増)\*となりました。

# 事業別売上構成比





エンターテイメント業界での 感触インプット アウトプットデバイス

#### (DMB)電子部品事業の強み

高周波対応ソリューション

- 根幹となる電気を繋ぐ・切る技術(アーク遮断等)
- コア技術を活用した機能組み合わせによるモジュール化の実現
- グローバルでのレジリエントな生産供給体制と品質管理体制

## **INPUT**

- 研究開発費:計52億円
- 設備投資費:計61億円 (2021年度実績)
- 商品の需要変動にタイム リーに対応するレジリエント な生産体制構築
- デジタル基盤強化 グローバルでの事業サイト (日・英・中)リニューアル (21年12月)

## **OUTPUT**

- 売上高:1,210億円(前期比24.9%増)営業利益:101億円(前期比120.6%増)\*
- 次世代デバイス・モジュールの技術・商品開発
  - ・脱炭素社会の実現に貢献する低発熱リレー など新技術・商品開発
  - ・低発熱高容量リレー「G9KA」が、"超"モノづくり部品大賞の「環境・資源・エネルギー関連部品賞」を受賞(21年11月)
  - ・顧客との共創を通じたモジュールの創出
- 顧客製品の安全性を担保する品質の強化
- ・オムロン深圳工場が、「清潔生産優秀企業」 を受賞(22年2月)

## OUTCOME

デバイスとモジュールの提供を 通じた地球上の人々の暮らしと 社会の発展に貢献



SDGs ゴール9.4.1

\*制御機器事業の一部商品を電子部品事業に組み替えて表示しています。